

## 題目：学生男女における痩身願望についての研究

A43138 長谷川 裕也

**第1章：**痩身とは、より細い体型を目指して行動すること、行動している状態、既に細い身体の状態のことである。一般的にはダイエットという単語で括られてしまう。これはマスメディアの誤用により日本で定着してしまっただけの結果である。ダイエットが始まったのはそれほど古いものではない。社会的現象となるのは19世紀末ごろからであり、太っていることがマイナス、痩せているのがプラスというスケールが中心になっていた。

**第2章：**ダイエットというウェイ・オブ・ライフ、またライフスタイルは、単純に言えば痩せる方法である。生理的、身体的面だけでなく、社会的、精神的、風俗的な意味を持っている。痩せたい、といった痩身志向が、強迫観念となり、時代を映す鏡となっている。

**第3章：**自尊感情とは、「self-esteem」(セルフエスティーム)の訳語とも言われ、自分の言動や思想に誇りを持ち、他からの干渉を排除する態度のことである。自尊感情についての研究はこれまでに多くされてきている。

**第4章：**本研究では、健常な大学生男女を用いて検討するとともに、男女差の比較も行う。2007年10月下旬、11月下旬、S大学千葉キャンパスにて、講義中に質問紙を配布した。男女合わせて290名。記入漏れや無回答、分析不能なものを除外したため、対象としたものは男子108名、女子168名の計276名。

**結果：**自尊感情については、男女ともにこれまでの研究にあるように、自尊感情が低いほど痩身願望が強いという結果は得られなかった。痩身願望に影響している要因としては、男性は食行動傾向とBMIという物理的な相関関係をみることができ、女性は心理安定感と特性不安という心理的な面で相関関係をみることができた。さらに、自尊感情と主観的健康感尺度の下位尺度である心理的安定感、意欲、体調に男女とも有意な正の相関がみられたことから、従来の研究結果を支持するものであったといえる。男女ともに自尊感情と特性不安に負の相関が得られたこと、自尊感情と心理的健康感尺度の下位尺度である、心理安定感、意欲、体調の3つの変数、また特性不安と主観的健康感、男性のみではあるが、痩身願望と食行動傾向に相関関係がみられたことはこれまでの知見を支持する結果であった。食行動傾向に影響しているのは女性であると思っていたのだが、結果はまったく逆のものとなっている。女性のほうが男性よりも体重変動に関心が強く、女性にとって体重が変動することは重大な意味をもつと考えられる。したがって、食行動傾向とも深い関係があると推測されるのだが、本研究において痩身願望と食行動傾向との関連性が見出せなかったことは矛盾した結果であると考えられる。

図1 痩身の値(男)

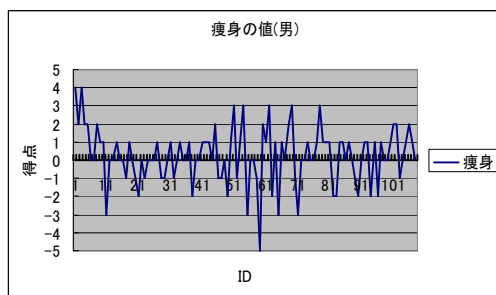


図2 痩身の値(女)

